

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000171		
法人名	社会福祉法人 京都福祉サービス協会		
事業所名	グループホーム桂坂		
所在地	京都市西京区大枝北沓掛町1丁目21番地の94		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokenaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhou_detail%2018_02_kunitrue&dirctoryCd=2694000171-005PrxID=268VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	令和3年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の開設当初の理念「ともに歩み、ともに支え、ともに暮らすを大切にします」に基づき、入居者の共同生活を職員と家族と地域とともに暮らしていくことを意識してサービスを提供してきました。今年度は新型コロナウイルスの感染予防により、ボランティアの受け入れ中止、地域住民の地域交流スペースの利用中止、面会制限を行うことで、関りそのものがほとんどなくなってしまいましたが、その分この一年は、中での暮らしのありようを穏やかにし、体調管理に努めることで、生活されている入居者のADLや認知症自立度の維持向上を図ってきました。結果的には、上半期の入院に至る件数はゼロで、稼働率は100%でした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは暮らしの主体は利用者であるという考えを基に利用者の思いを把握し生活歴や趣味、習慣等を参考にしたり、日々のコミュニケーションや家族にも聞きながら、利用者の力を発揮し暮らせるよう支援しています。また入浴においては希望の時間や浴槽への入り方等入浴方法を表に記載したり、排泄においてもその人に合った排泄用品等を検討しながら個々の状況に合わせた個別支援に取り組んでいます。職員の年齢層は幅広く会議や日々の業務、ネットワークシステムの中でそれぞれの立場から多くの意見やアイデアが出され、車いすやシルバーカー等利用者が動きやすいよう動線の確保や置き場所の工夫をしたり、日々の体調管理に留意するなど利用者がホームで安心して暮らせるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム内の目につく所に理念を掲示している。 管理者及び副主任より、社内メールで適宜、理念に沿ったケアが出来る様に呼びかけている。	事業所理念をパンフレットに記載すると共にフロアーに掲示し、新任入職時に理念についての説明を行うなど職員への意識づけを行っています。 年度初めや4月の勉強会の中で理念について話し合ったり、暮らしの主体は利用者であることを常に意識しながら支援するなど毎月の会議の中でも振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の方が敬老祝賀会、クリスマス会、餅つきなどに参加されたり、地域のお祭りなどにもご利用者と職員が参加し、交流をしていたが今年度は新型コロナウイルスの影響で中止になっている。	以前は地域と多くの交流を図っていましたが、コロナ禍では地域の美化運動に職員が参加したり近隣の散歩時や生協の訪問販売時に出会った方と挨拶を交わすようにしています。電話にて地域の老人クラブとやり取りをしたり保育園から届いた広報誌をホーム内で回覧する等地域との関わりが途切れないよう努めています。また日頃から交流のあった地域の方から多くのマスクが届くなど地域との良好な関係が築かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各学区の地域ケア会議へ参加し、学区の民生委員会や老人福祉委員の方々と意見交換及び認知症の対応等、情報を提供している。 また、各小学校で実施している認知症サポーター講座にスタッフとして参加し、普及活動に協力しているが、今年度は全てが中止になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日ごろのケアや事故、ご意見に対する対応について助言をいただいたり、身体拘束に係る考え方などを示し、いただいた意見をグループホーム会議で共有している。	会議は家族や住民代表、地域包括支援センター職員等の参加を得て活動状況や事故報告等を行い、地域の困りごと相談等について話し合っていますが、コロナ禍においては報告書や議案を送付し意見をもらい議事録を送付することで開催としています。議事録は全家族にも送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を持参する際に、グループホームの取り組みを伝えたり、運営推進会議では包括職員と情報共有を図っている。	運営推進会議の議事録を持参したりわからなかった場合は電話で聞いています。アンケート依頼に協力したり感染症等についての注意喚起があった場合は職員に周知しています。コロナ禍においては消毒液やマスクの配布を受け、また依頼があり管理者が地域の高齢者向け改修の助言者として協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護に関する研修を行い、各職員が身体拘束を行わないという意識を持って支援している。また、毎月グループホーム会議内でも取り上げ、日常業務の振り返りの中で虐待につながるような支援や考え方がないか話し合っている。	年2回全員参加の研修を行い、毎月の会議で話し合い運営推進会議で報告し身体拘束適正化委員会を行っています。不適切な対応があった場合は職員同士や管理者が都度注意し、外に出たい希望時は散歩や1階の交流スペースを一周する等気分転換を図っています。家族の希望で赤外線センサーを使用している利用者がいますが、安全な見守りのためと理解し必要性について都度検討しています。	

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束に関する研修を年に2回実施し、そのうち1回は管理者が、もう1回は職員が講師をすることで、より虐待について自ら考え取り組めるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度行ったリーガルサポートによる、成年後見人の資料は各フロアに配置している。また、権利擁護研修の中でも制度の案内を行って理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際や報酬改定の際は、重要事項説明書、契約書等をつつ説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの苦情、相談の報告書を作成し、管理者、副主任、ケアマネ、担当職員、ご家族と話し合いをする機会を設けるなどケアに反映できるようにしている。	家族には毎月写真付きの手紙を送り様子を伝えており、月1回のアンケート調査や電話等で意見や要望を聞いています。散歩についての質問があり、コロナ禍で難しいことを伝え、アンケート結果については家族に報告をしています。利用者からは会話や利用者アンケートで聞いており、ほしいものは生協で購入したり家族に伝え届けってもらうなどしており、食べたいものは食事に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議に出席して意見を聞くほか、定期的にはヒヤリングを実施している。 指示的にならないようにケアに関する意見を中心に積極的に意見を聞くよう心掛けている。	職員からの意見は月1回のグループホーム会議や日々の業務等で聞いており会議に参加できない場合はネットワークを通して意見を出したり職員の気づき連絡ノートに記載するようにしています。職員からの提案で危険性の少ないコードレスの掃除機等物品購入に繋げています。また年1回の定期面談や随時の面談で意見を聞いたり、産業医に提出するストレスチェック表を基に職員と話をする機会もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業の削減、ライフワークバランス等に合わせた勤務調整などを実施している。 職員同士の人間関係、職員、ご利用者との人間関係の把握に努め、心理的負担が無いように、声掛けを中心に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度に基づき、年間研修計画を個別に立案するほか、パート職員でも参加しやすいように、毎月の事業所内研修は平日の14時から実施している。又、ケアについて必要な資料の配布などを積極的に進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着協に属し、年間研修計画の中に部会参加を位置づけ、一般職員も部会に参加できるように勤務を調整している。ただし、今年度は新型コロナウイルスの影響で部会自体の中止が多い。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時、ご入居時にご本人の要望を時間を掛けて聞いている。又、事業所で出来る事等を伝えし、ご入居時に不安が出来るだけ少ないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接、ご入居時に必ず要望を聞きケアに反映している。ご面会時には普段の様子を積極的にお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時や入居時の要望について状況把握をしながら、ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴や性格を把握し、さらに嗜好、思いを記録することで、ご本人の能力に応じた生活者としての暮らしを支えるように支援している。そのうえで、他者との人間関係にも配慮している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族それぞれの意向を伺いながら、ご家族が気兼ねなく、面会に来れる環境整備を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の大切にしてこられた場所、思い出の場所などを積極的に伺い、職員がご利用者の生活背景を大切に出来る様にコミュニケーションを図っている。	アセスメントをする中で知り得た馴染みの人や場所については気づきノートやアセスメントシートに記載し職員間で共有しています。友人や同僚から年賀状が届いた場合は葉書の準備や代筆をしたり、投函等の支援を行っています。利用者の住んでいた故郷の自宅近辺をヘリコプターで撮った動画を見てもらい昔話をしながら会話をしたり、以前からの馴染みの病院へ家族の付き添いのもと通っている利用者もいます。	

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性や性格などを把握しながら座席を工夫したり、交流が図れるように職員も一緒に家事やレクリエーション等を楽しむ機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	この1年間、サービス終了後にフォローが必要な事例がなかったが、相談や支援の必要が無くても、気軽にお越しいただけるような雰囲気づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	画一的なケアにならないよう、PDCAサイクルでケアの見直しを行っている。職員がご利用者がゆっくり関わられるように職員間で協力している。担当職員を中心にご利用者のケアの見直しや検討して欲しいことがあれば、気づき、連絡ノート等を用いている。	本人や家族から入居前の面談で生活歴や趣味好きな物等を聞き、ケアマネージャーからの情報も加えて、聞き取りシートに記載し意向の把握に繋がっています。入居後は会話や表情、行動等から思いを汲み取り、把握が困難な場合でも気づいたことや家族から聞いたことを介護記録表や気づきノートに記載し会議の中で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所独自の情報シートによるアセスメントのほか、より深く知る必要があった場合には個別にセンター方式のシートを用いて、積極的にアセスメントをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新規ご利用者の方は、一週間24時間シートの記入。主治医や訪問看護師などに日常の様子を連絡相談している。 (主治医がそれぞれ違うので、手紙、受診付き添い、ご家族に伝えるなどニーズに合わせている)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を職員が毎日チェックし、担当職員やケアマネが評価している。 日々の記録や職員間のコミュニケーションで現状課題を分析し、チームでケア内容を決め実践している。現状に即したケアを実践するために気づきノートを積極的に活用している。	本人や家族の意向の基作成した介護計画は実施状況について毎日チェックし職員の意見を取り入れながら3か月毎にモニタリングを行い6か月毎に見直しを行っています。その際は再アセスメントと原則家族の参加を得てサービス担当者会議を行い、事前に主治医や訪問看護師、訪問マッサージ師等「より意見をもらったり、必要に応じて会議に参加を得ることもあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング表を職員が毎日チェックし、担当職員やケアマネが評価している。 日々の記録や職員間のコミュニケーションで現状課題を分析し、チームでケア内容を決め実践している。現状に即したケアを実践するために気づきノートを積極的に活用している。		

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリング表を職員が毎日チェックし、担当職員やケアマネが評価している。 日々の記録や職員間のコミュニケーションで現状課題を分析し、チームでケア内容を決め実践している。現状に即したケアを実践するために気づきノートを積極的に活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまで暮らして来られたライフスタイルの把握に努め、ご本人の要望に応じ、買い物同行や地域のサークルに参加できるように促している。ただ、今年度は地域のサークルが停止しているため、サークル参加は実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面接時等に回診について伝え、これまでのかかりつけ医及び回診医を選んでいただいている。 必要に応じて、精神科、整形外科、歯科等の医療機関に受診できるように主治医や訪問看護師に相談しながら必要な医療を積極的に受けられるように努めている。	これまでのかかりつけ医を継続する利用者もおり家族が通院対応をしたり往診を受ける方もいます。ホームの協力医は月2回の往診があり24時間連絡可能で体調不良時は直接連絡し往診や受診等の指示を受けています。専門医については家族の同行の下職員も付き添い、一方が行けない場合は口頭にて情報共有しています。訪問歯科は必要や希望に応じて随時受けており、希望によりマッサージを受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師訪問時に医療連携ノートを用いて連絡、口頭でも伝えている。 事故や体調の急変等は電話で相談している。 看取りの際にも、現状と当事業所が行っているケアの連絡を行い、必要なケアの提供ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医に医療情報提供票を直ぐに送付して貰えるように手配。介護に関するサマリを提供している。地域連携室の職員とも連絡し合い、退院時には退院時カンファレンスの開催を依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り指針の説明、希望書の確認を行っている。又、食事摂取量の低下や体重減少など心身機能の低下がみられる時には、主治医に相談する。看取り期である事や疾病により突然心停止などの可能性が高いなど利用者ごとに対応マニュアルの作成をしている。又、想定される内容の説明を出来るだけ主治医、ケアマネ、介護職員間で共有できるように、必要に応じてカンファレンスの実施を行っている。	入居時に看取り指針を基に説明を行い意向を確認し、重度化した場合は主治医や職員から家族に伝え三者で話し合い方針を決めています。家族には面会時に利用者と長い時間過ごしてもらったり、食べられるものを持参してもらうなど協力を得ています。看取り支援後は会議で振り返りを行い、研修についてはズームでの外部研修を受けた職員が伝達をしたり月1回職員が順番で講師を担当する内部研修も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応研修を年に1回実施。各利用者ごとに緊急時対応マニュアルを作成している。		

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ふれあいの里消防互助会に属し、相互に連携が取れるようにしている。この福祉ゾーンの施設が合同で消防避難訓練を実施し、連携を確認している。今年度は新型コロナウイルスの感染予防により合同訓練は実施されなかった。	年2回消防署立ち合いの下昼夜想定訓練を行っていましたが、コロナ禍では自主訓練を行い行政に報告をしています。運営推進会議で訓練の案内や報告、協力体制等についても協議しており、地域の訓練にも職員が参加しています。備蓄は水や缶詰等の他、アルファ米、カセットコンロや懐中電灯等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法令遵守研修のなかで職業倫理の実施、事業計画に丁寧な言葉づかい、丁寧な対応実践と掲げている。	職員は年度当初に法令順守等の研修の中で接遇マナーについても学んでおり報告書を提出することで理解を深めています。言葉かけは丁寧語で名前は苗字で呼ぶようにしており、気になる場面が見られた場合は都度注意をしています。年数回接遇チェックリストを基に振り返りを行いそれを基に管理者が指導することもあります。また可能な限り同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で常にご本人の意向の確認を行っている。又希望や要望があれば、傾聴しケースに記録し、共有している。言語でのコミュニケーションが困難な利用者は、表情や仕草なども記録している。全利用者の嗜好を把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、時間だから起きてもらうなどの決まりで支援するのではなく、生活のリズムや大切にしたい習慣を把握し、新たな気付きは「気づきノート」に記入することで、全職員が利用者主体の生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	共同生活である以上、他者と共に暮らしているように、当たり前身だしなみができているように声掛けや誘導を行っている。女性の場合、化粧をすることも生活の一部なので、個別のこだわりも含めて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	屋食の準備、調理から皿洗いなど、出来る方実践していただいている。食事でも利用者の関係を考慮して、楽しみながら食べられるようにしている。また、後片付けなどはできる方が協力して行っている。	朝と夕食は冷凍したものが届き湯煎にて提供しています。昼食は好みや旬、行事食等に配慮しながらホームで作り野菜の下拵えや味付け、盛り付け等可能な利用者に携わってもらい職員と一緒に食事を摂っています。鉄板で焼きそばやお好み焼き等を作ったり、寿司のテイクアウトやクッキー、ゼンざい等の手作りおやつなど食事が楽しみなものになるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残す事で食事摂取量の把握、水分摂取量の把握に努め、必要な方はケアプランに1日の摂取水分量を入れ、職員が意識しながらご本人の負担にならない摂取を工夫している。好みやタイミングを探りながら提供している。		

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自立されている方、支援が必要な方を把握し、起床時と就寝前は全員、必要な方は毎食後に口腔ケアの実施をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜共に排泄パターンの把握。排泄用具を適切に使用出来るように失禁された尿量の測定などを行い、最適な排泄用具の提供が出来る。	排泄の記録を基にパターンを把握し、様子やタイミングを観ながらトイレへの声かけや誘導をしています。日中はトイレでの排泄を基本としトイレにテーブルスタンドを設置し座位を取りやすいように工夫し、尿量の測定をしたり支援の中で気づいたことを気づきノートに記載し排泄用品や支援方法についても会議の中で随時検討しています。入居後支援を継続する等トイレで排泄ができるようになったり、退院後も速やかに元に戻すよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に意識をしながら、便秘傾向の方には医療従事者に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴がご本人の希望や心身の状況に合わせて出来る様に入浴票を作成し、入浴の有無が確認出来るようにしている。希望の時間や入浴方法を個別で把握し入浴支援している。	入浴は週2回日中に支援しており、入浴方法や浴槽の出入りの仕方、希望時間等を個別に記載し参考にしながら支援しています。一人ひとり湯を入れ替え、シャンプーやリンス等好みの物を使用したり柚子や菖蒲湯の他、入浴剤を使用し楽しみながら入ってもらっています。拒否のあった場合は日時や職員の変更、声かけの工夫、タイミングを見計らって無理のないよう入浴支援に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めず、日々の暮らしの中で就寝時間が把握できるように工夫している。 (灯りの調整、夕食後の雰囲気作り、寝間着への更衣など)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を全職員が把握できるよう、薬情を薬入れに入れている。夜勤者が薬のセットをすることになっており、処方の変更があれば、医療連携ノートで申し送りしている。薬の副作用などの症状が把握できるように医師や薬剤師に積極的に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活背景等を把握しながら、食事の準備や洗濯などを実践していただける様にしている。 今年度は新型コロナウイルスの感染予防により外出の機会がほとんどないため、外出したいという要望にはお答えできていない。		

グループホーム桂坂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナウイルスの感染予防により外出制限を行っているため、外出したい希望には添えていない。中でも、紅葉ドライブや、日々のお散歩など、人と接触しない形での気分転換を図ってもらっている。	季節毎の初詣や桜や紫陽花、藤等の花見に行ったり、地域の行事等に出かけていますが、コロナ禍においては日々近隣の散歩に出かけたりドライブで桜の花見や紅葉狩り、嵐山方面等に出かけています。リビングの大きな窓を開放して外気浴をする等少しでも外気に触れる機会を設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別でご本人の希望に沿って、必要な物を購入して頂いたりしている。金銭管理が難しい方はご家族の協力をお願いしている。現在施設で金銭管理をしている方はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された場合は、ご自身の携帯電話もしくはスタッフルーム内の固定電話から電話を掛けていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度については、共有部分のご利用者を確認したりしながら設定出来ている。 照明については、リビングは時間に応じて変更、窓から差し込む光がまぶしい際にはカーテン等で調整する。不必要な音が無いように丁寧な行動を意識できるように職員に伝えている。	共有空間には生花がある時は花瓶に活けたり、雛飾りや七夕飾り、クリスマス等季節の飾りつけを利用者と一緒に行い季節を感じてもらっています。日々換気や掃除を可能な利用者と一緒に 行い冬は床暖房を入れ温湿度計や利用者の体感に留意し快適に過ごせるよう配慮しています。キッチンから離れた場所に数人がけのソファを置き好きな場所で過ごせるようにしており、テーブル席は利用者の相性等を考慮し変更することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の座席への配慮、レクリエーションや談話される時には、気の合った利用者同士が関わられるように意識している。普段からご利用者同士の関わりをよく観察し、必要に応じて席の変更も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、ご本人になじみのある家具などの持込を提案したり、心身機能に応じて設えを変更する提案等を行っている。	入居時にタンスや椅子等を持参し本人や家族と相談しながら配置し、入居後は動線等考慮しながら変更することもあります。家族の写真や遺影、ぬいぐるみ、囲碁、手芸道具、自作のカーディガン等大切な物や趣味の物を傍に置きその人らしい居室作りに努め、毎日日記を付けている方もおり支援しています。日々掃除は可能な利用者と一緒に 行い快適に過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が使用されている福祉用具(シルバーカー、車椅子)の使用がしやすいように動線の確保、設置場所の確保が出来る様に工夫している。 ベッド、ベッド柵についても状態に合わせて使用できるようにしている。		

目標達成計画

作成日:2021 3月24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	新型コロナウイルスの感染対策により、外出の希望があっても、思うようにお出かけすることができず、一人ひとりの希望に沿った外出や買い物ができなかった。 今後も当面の間は感染対策による行動制限は予測されるものの、そういった中でも一人ひとりの生活をより豊かにするために、できることを増やしていくようにしていく必要がある。	新型コロナウイルス感染対策をしながらも、日々の中で楽しみを見つけられるよう定期的に外出する機会を設ける。	①散歩を希望されているご入居者には、気分転換・下肢筋力低下予防のため、パート職員が出勤の日は毎日散歩に出かける。(天候が良い日のみ) ※散歩は同じご入居者ばかりにならないよう、希望者が平等に出かけられるよう配慮をする。 ②買い物希望されているご入居者には、買い物代行と毎週木曜日14時からの生協の訪問販売を活用する。 ③ドライブなど人との接触が少なく、新型コロナウイルス感染のリスクが低い外出行事を可能な範囲で企画し実行する。(不定期) ④オンライン面会や短時間で面会していただく機会を設け、ご家族との繋がりを感ぜてもらおう。 ⑤事業所内で行える行事も可能な限り企画し実行する。(不定期)	12ヶ月
2	36	「丁寧な対応と丁寧な言葉遣い」を運営方針として定め、年度当初他事あるごとに職員に意識するように投げかけているが、その「できている」と感じる度合いは一人ひとりの感覚に差があるため、通年で働きかけ、施設としての基準を浸透させる必要がある。	ご入居者と職員の関係が馴れ合いにならないように、より丁寧な対応と丁寧な言葉づかいを大切にすること。	① 3か月に一度ケアチェック表を用いて職員が普段の対応、言葉づかいを振り返り、見直す。丁寧な対応、言葉づかいが出来ていない場面で職員同士が注意し合う。	12ヶ月
3	20	外部機関や地域交流が寸断された状態で、事業所のことを知っていただく機会がほとんどなくなった。 今まで、母体施設の広報誌のページに掲載してもらっていた情報を事業所独自で作成し、地域に配布することで、地域とのつながりを継続し、事業所の理解をしていただくように働きかける必要がある。	コロナ禍でも地域との交流が途切れないよう、事業所の様子を外部へ発信する。	① 広報担当を決め、3~4か月に一度の頻度で広報誌を作成し配布する。 ② 自治会に相談し、回覧板や掲示板への掲載ができないか検討していく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。